

CCS news

vol. 12

SUMMER
2014

北海道のまちづくりを ITでサポート

中央コンピューターサービスは、北海道の人々がより豊かで快適な生活を送ることができるよう、自治体をはじめ、教育、農業関係者と手を携え、様々なITサービスを展開しております。

Hirokatsu Nishizima

新しいニュースが届きました

読む

絶対読む



Imai



Chiba



Settings



Ishitoya



Takahashi



Irimajiri



Hase



Abe



CCS mail



Nakamura



Murahashi



Tanaka



next person





お客様の声

中札内役場 議事事務局 長澤 則明様 林 真悠様
[中札内村HP] www.vill.nakasatsunai.hokkaido.jp



林 真悠様

CCS 最初に、議会中継のネット配信をすることになったきっかけを教えてください。

お客様 きっかけといいますが、村民の方から聞かれた議会「議会の情報公開」ということで議会のネット配信の提案がされたんです。そこで、議会からの情報発信や議会改革の一環、なにより議会活動の理解や関心を持ってもらうことができればとそこから管内で既に導入している町村など調べました。

CCS 鹿追町さんにも視察にいってほしいと思います。色々調べたくなったと思います。そこで弊社に決めていただいた理由をお聞ねしてもいいですか？

お客様 もともと参考にしたのが鹿追町さんでした。ユーストリムで経費を掛けずに導入したという話を聞いて視察も決めたのですが、それがCCSさんで。そしてうちの議会に合ったものを提案していただきました。なにより担当していただいた入交さんが大変すばらしく(笑)

CCS そこはそのまま記事に使わせていただきます(笑)

お客様 局長が人事異動で代わったばかりで分からないことばかりでしたが、全てお任せでやっていただけて助かりました。

CCS ところで、弊社を知ったきっかけは、その鹿追町さんですか？

お客様 実は、30年近く前に、総合行政システムの提案を受けたことがあって、会社自体はその時から知っていましたが、今回の議会中継に関しては、そうですね、鹿追町さんがきっかけです。

CCS 助かった一言です。取付なども、非常に格好良くしていただきました。きつと最後まできれいにやっていただけて嬉しかったです。金額的にもそんなに高い仕事じゃないのに、ここまでやっていただけています。

お客様 システムの使い方も丁寧な教えていただいたり、いろいろと微調整していただいたり。おかげで操作もスムーズにうまくいきました。

CCS 本番運用が始まって1回目2回目と立ち会わせていただきましたが、議会開始前って、時間あるようで結構はたつものなんですね。今回のボタン一つで配信できる仕組みが採用できてよかったなと思います。

お客様 いや、すばらしい

CCS ありがとうございます(笑)

お客様 議員の方々の反応はいかがですか？

CCS 自分の発言内容を改めて確認できるのいいという話を聞きました。映像もきれいですよね。まずは、住民の方々に、議会でのこのようなことをやっているかを見てもらい、関心をもってもらうための良い試みができていると思います。

CCS 最後に、今後弊社に期待することを教えてください。

お客様 親身になって仕事をしていただけて、相談ができるようなので、これを機会に色々相談したいです。

CCS たとえば、各所でペーパーレス化などの動きもありますね。

お客様 そうですね。それも議会改革のひとつとして今後取り組んでいく必要があるかと思っています。その手のユースも見掛けるようになりそうです。そういう情報などのお話を伺えればと思います。

CCS はい、引き続きよろしく申し上げます。ご期待ください。

お客様 なにより、たまに遊びにきていただければ(笑)

CCS ありがとうございます。遠慮無く遊びにきます(笑)。ご協力、ありがとうございます。

取材 八十勝 入交 里奈

長澤様、林様、ご協力いただきありがとうございました

ぜひお問合せ下さい

商品紹介

当社の新製品・注目製品をご紹介します。
導入をご検討のお客様はスタッフが詳しいご説明に参りますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

クラウド型出講希望登録システム

「出講希望」とは新年度の授業を計画するにあたり、時間割の作成の為に教員に授業の希望曜日・時間を取ることで、大学では、その大学に所属する教員の他に、非常勤講師に特定の授業をお願いしております。これら教員の数は大学規模によって異なりますが数百人単位の数にのぼります。従来まではアンケート用紙に記入してもらい、時間割の編成に当てておりました。

「クラウド型出講希望登録システム」は、Webで教員が担当する授業の出講希望を登録するシステムです。これにより、取りまとめていた事務職員は、従来のアンケート用紙の配布・郵送、用紙回収、希望結果の登録といった業務が一切無くなります。また、弊社の「大学の時間割」に希望結果が取り込まれることで、教員の希望に沿った授業時間割の編成が可能となります。



〈札幌〉石戸谷 卓也

グルメプッシュ!

社員オススメのお店を紹介します

のどごし最高! こだわりの手打ちそば

私がご紹介するのは、私の出身地の江別市にあるそば屋「わか竹」です。私はお米が大好きなので外食もほとんどご飯ものになるのですが、このお店には定期的に通ってしまいます。この店のそばは蘭越町産のそば粉と江別市産の小麦粉をつかった手打ちそばだそうです。麺は細めで、のどごしが最高にいい、夏にもぴったりのおそばです。

私は普段は天せいろを頼むのですが、この日は、写真に載っている鴨せいろを食べました。やわらかい鴨につるつるのそばが相性抜群で大満足の一品でした! 江別にお越しの際には、ぜひお試し下さい。佐藤が自信をもってお勧めいたします!

〈札幌〉佐藤 拓也



手打そば 北海道江別市野幌末広町1番6
TEL:011-381-0188

【営業時間】 11:00 ~ 15:30 (昼がなくなり次第閉店)
【定休日】 毎週月曜日、第3火曜日、お正月、9月第1週の月~金



IT 技術 これ知ってる？

CCS社員が
今注目している技術
を紹介いたします！

「国民総プログラマー時代へ」

『ビジュアルプログラミング言語』をご存じでしょうか？Scratch(スクラッチ)、VISUIC(ビスケット)などに代表される、テキストの記述ではなく視覚的な操作でプログラミングが可能な言語です。

最近では、Flower(フラワー)など新世代のビジュアルプログラミング言語も出てきて広がりを見せています。プログラミングといえば複雑な言語を利用しなければならず、専門知識が必要な敷居の高いものでした。しかし、最近ではスマートフォンアプリを見てもプログラミングを生業としていない人たちが作ったものも多くあるようです。

プログラミングの基礎を学べば小学生でもプログラミングができます。今後はプログラミングが義務教育化される可能性もあり、小学生のうちから学ばせたいという親御様も増えているようです。そんな流れから、小学生でもプログラミングを学べる教室が増えてきたり、小学生向けのプログラミング本も売れているようです。

国民総プログラマー時代はまもなく訪れます。そのとき、世の中を支えている情報システムやそれを開発・運用しているソフトウェア技術者たちはどのように変わっているのでしょうか。

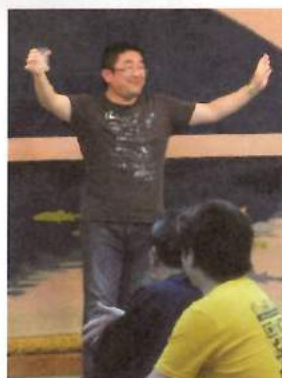


〈本社〉朝長 貴志



社員紹介

自治体事業部 西島 裕克(にしじまひろかつ)です。



今回、地域IT事業部以外から初めての表紙に選ばれた西島 裕克です。

私は自他共に認める「ビール」と二人の男の子を愛する男です。私の所属は本社なのですが、つい先日まで札幌支社へ数年間に渡る長期の出張をしております。

札幌へ出張している間も、本社で毎年行われる花見イベントには必ず参加しておりました。本社で行う花見は社員の家族も参加して行一大イベントです。そして何よりこのイベントはビールサーバを借りて行いますので、大のビール好きである私には絶対に外せないイベントなのです！ 毎年5月の中旬に行っていますので、少々肌寒いのが難点です。

最近では自宅にて生活していることの安心感が、晩酌のビールの本数が増えています。これから益々ビールがおいしくなる季節です(1年中おいしいですが...) 体に気を付け、短い北海道の夏を堪能したいと思います。



地域貢献イベント

モエレ沼公園で、ママチャリ耐久リレー

6月22日、札幌モエレ沼公園で行われた『第14回 HOKKAIDO ママチャリ耐久リレー大会』に、CCS社員と藤女子大学職員様との合同チームで参加しました。

ルールは『改造していない一般的なママチャリで、1周3.5kmのコースを4時間でどれだけ走ることができるか』メンバーには本格的に自転車に乗っている人もいますが、初めて参加する人、女性がいることから上位入賞は難しい、けれどせっかく出場するなら「インパクトのあることがしたい」⇒それなら「チーム名を長くして目立とう！」

ということで考えました、北海道弁をふんだんに使ったチーム名『げっぱにならないようになまらはっちゃきこいてけっぱらNight』です。大会中にMCの方からチーム名の紹介がありましたが一言、長い！(笑)

当日は天候にも恵まれ、アツク楽しく汗を流せました。結果は251チーム中102位と、なかなか健闘したのではないのでしょうか。(100位なら豪華賞品が当たったので、ちょっとくやしいです。)

来年も参加機会がありましたら、より上位をめざしたいと思います。

〈札幌〉橋本 圭司



F次長の 週末「○○」のじかん

とうとう、本コラムも今回が最終回。「vol.9(秋号)」より「F次長の週末○○のじかん」と題して始めてから、早いもので1年が経とうとしています。最終回にふさわしい題材を考えてみましたが…今回のネタは「ぼうし」にしました。最終回とは無縁な話ですね(笑)

私もここ1年程「ぼうし」にはまり、週末などプライベートで出かける時は「ぼうし」をかぶる事が多くなりました。以前までは、どうせ似合わないとか、髪型が崩れるとか、蒸れて暑いとかの理由から基本的にはキャップ1つくらいしか持っておらず、殆どかぶる機会もなかったのですが、たまたま人から譲り受けた「ぼうし」をかぶったところ、なんて便利で素晴らしいものだと思えてから何かと買っているうちに、今では2桁に達する所持数になってしまいました。

素晴らしいと感じた理由の1つに「便利さ」があります。週末なんかはどんな状態であろうと家を出る準備が10分あれば完了します。「顔を洗う」「着替える」「ぼうしをかぶる」これでもう外に出られます。どんな寝癖であろうと「ぼうし」をかぶるだけで準備完了です。

もう一つは「ファッションアイテム」の1つになるという事です。「ぼうし」にも色々な種類があります。形であったり、材質であったり、色であったり… 昨年は「ストローハット(麦わら帽子)」が流行りましたが、昔から人気があるのは「ハンチング」や「キャスケット」「ニット帽」あたりでしょうか。私も幾つかの種類や色の違った「ぼうし」を持っており、その時の格好や気分に合わせて使い分けています。

初めはかぶった瞬間の第一印象で「似合わない」と思いこんでしまい買っただけに至らない人が多いようですが、それは勘違いで見慣れないだけですね。試しに1度「ぼうし」をかぶって1日過ごしてみることを



オススメします。慣れるとはまってしまう人も多く、色々な種類が欲しくなる傾向にあるようです。(私がそのパターンでした) ファッションアイテムの1つとしても超お勧めアイテムの1つです。是非、お試しあれ。

という事で最終回となりましたが、4回にわたってお付き合い頂きありがとうございました。また、他のコンテンツでお会い出来る事があると思いますので、これからも「CCS NEWS(IT通信)」をご愛読いただければ幸いです。

〈札幌〉古林 誠

マニアック米川の IT千里眼



このコラムも今回が最終回となりました。「IT千里眼」というタイトルにも拘わらず、過去のIT技術の軌跡や近頃の状況と誰もが知り得る情報ばかりを取り上げ、いささかタイトル負けしたと、お恥かしいところです。「5年後10年後が一体どうなっているかは想像できない」というところが本音でしょうか。

IT技術の進歩と、それを応用し様々な分野に広がりを持たせるビジネスは今後一層強くなって行くと思われます。身近なところでは家電を中心に生活に密着した物に対するIT化が益々進むと思われます。その1つがウェアラブルデバイス。時計・メガネなど身に付けて使用するコンピュータ(ウェアラブルコンピュータ)

は以前から存在していましたが、今後はスマートフォンやクラウドと連携する端末としての普及が予想されます。自動車メーカーとアップルが提携した車載デバイスが搭載された車が登場するのも気になります。

ITによる豊かなこの時代に、これらITの恩恵を受けられる人達、受けられない人達、つまりIT格差やIT弱者を生み出す誰もが手に入れることができ、利用できる社会が成り立たなければ、それらは一嗜好品に過ぎず一過性の商品として、いずれ消え去ることでしょう。私もITに携わる者として、微力ながら社会に貢献できる物づくりをし続けたいものです。

〈札幌〉米川 信一

今号より全社員によるCCS通信が始まりました。まずその第一弾となる表紙を自治体事業部の宴会部長こと西島さんに飾ってもらいたいかなと考えてはいかがでしょうか?

またこの夏号で2つのコラムが最終回を迎えました。マニアック米川のコラムは最後までマニアックでしたね…たまたまIT業界の生き字引のお話を皆さんに提供出来たことに私は満足しております。またF次長の○○の時間。このコラムは実は私も楽しみ

編集
後記

にしておりました。今回の帽子の話もわかるわかると思ひながら読んでおりました。兩名とも1年に渡りお疲れ様でした。この場をかりてお礼を申し上げます。

さて次回の秋号ではまたまた大幅リニューアルいたします。中身も含めすべてを大幅に変える予定ですのでお楽しみに。それでは次回のリニューアルした秋号でお会いしましょう!

〈札幌〉山本 拓史

CCS 中央コンピューターサービス株式会社

■本社

〒086-1152 北海道標津郡中標津町北町2丁目22番地
電話:0153-72-0115 FAX:0153-72-0199

■札幌支社

〒060-0807 北海道札幌市北区北7条西1丁目SE札幌ビル9F
電話:011-700-5588 FAX:011-700-3254

地域IT事業部

電話:011-737-7301 FAX:011-737-7303

■十勝営業所

〒080-0016 北海道帯広市西6条南6丁目3番地 ソネビル3F
電話:0155-20-4684 FAX:0155-20-4685

■後志営業所

〒044-0034 北海道虻田郡倶知安町南4条西1丁目4番地2号2F
電話:0136-22-6004 FAX:0136-22-6005

■東京営業所

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-11 カツミビル601
電話・FAX:03-6206-4405